

# 瓦馬おはま

瓦版 おはま  
第15号

H・30・10・27(土)

編集 発行  
木村慎一

・平成十年(一九九八)九月二十二日、偶々ヨーロッパツアーに参加した折り、ファブリーの出生地を尋ねることができた。

古都ローマは、近代都市ではあるが、古代や中世の町並みが今もそのまま残っている不思議な街だった。目指すファブリー出生地ピア・デラ

## 消えたイタリア館 (四)

### ファブリー生誕地古都ローマ訪問 雄図も空し 油川の地に眠る



ファブリー生誕地、イタリア、ローマ、ピア、デラビテ14番地。

平成10年9月22日 撮影 木村慎一

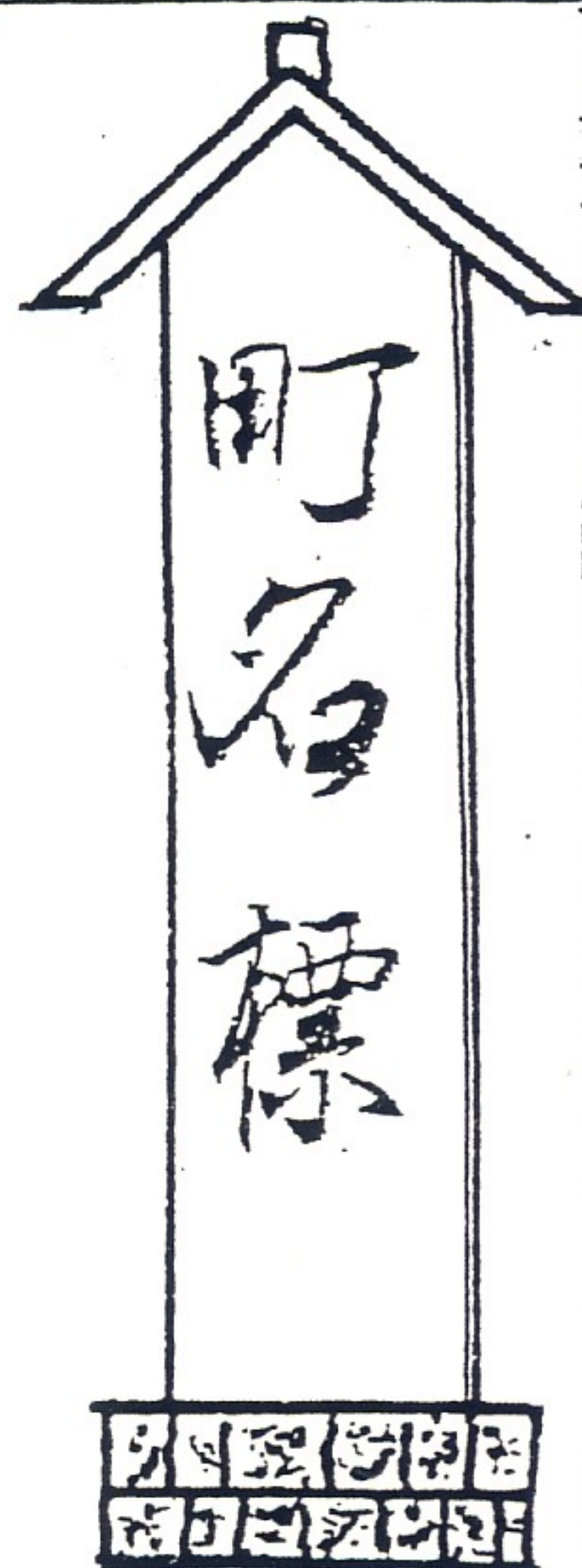
ビデ街十四番地は、ホテルで地図を調べたら幸い歩いて行ける所にあった。翌日I氏と二人で出かけた。約三十分程で着いた。道は石畳みで、しかもでこぼこして車だと不便だろうと思った。ピア・デラビデ街十四番地は標識が明示され、ファブリーの生家の前には迷わずに立つ事が出来た。五階立て、レンガ造りか石造りか分からないが石畳みの道からして恐らくは数百年前に建てられたアパートだろうと思った。そして今なおそこに人が暮らしていたのであった。

・油川の工場から移出されたオイルサージンを詰める、母国イタリアでも確かな評価を得、事業が軌道に乗った矢先、大正七年(一九一八)七月四日、ファブリーは悪性感冒(スペイン風)に罹り、雄図空しくはるか遠い異国の地油川で五十四歳の生涯を閉じた。

・遺体は、青森からカソリック宣教師を招き、町民や工場関係者の手で羽白共同墓地に埋葬された。今、明誓寺にある墓は、後、十年忌に当たる昭和二年(一九二七)七月、羽白墓地に、町長西田林八郎の提唱で建てたものである。「油川」村が正式に東津軽郡油川町に成ったのは、大正八年(一九一九)三月三十一日であった。東津軽郡内では当時唯一の町制施行地であった。

・ジュゼッペ・ファブリーは、一八六六年(慶応二年)、イタリアの主都ローマ市、ピア・デラビデ街十四番地で生まれた。近衛騎兵隊隊員を経て日本にやって来たは四十代後半であろうか。

この項終る



《第十五回》

ひばりの町の巻き

ひばりの町の町名標は、平成十五年(二〇〇三)、元氣町油川街づくり委員会が建てた。場所は、野木和団地集会所の前で現在も建っている。標文は次の通り。

往時は油川城の城下町であったとも言える。団地になる前は、ひろびろとした野原に、春から夏にかけていつもヒバリが囀っていた。地区の大部分は、昭和八年(一九三三)から同二十年(一九四五)まで旧青森飛行場が占め、同四十五年(一九七〇)頃には県営木造住宅が建ち、その後、鉄筋四階建てアパートに立て替えられた。野木和団地集会所は、後昭和五十七年(一九八二)の建設。

「ひばりの町」は「あけぼの町」と共に、町会名をひらがなで表記したので分かり易い。ひばりが囀る町だから「ひばりの町」と命名した人たちの中にも、あるいは自然の風物を愛する詩人がいたからであろうか。

油川連合町会傘下十七町会時代は、世帯数三百八十五以上を擁する最大町会であった。町会運営も活発で、独自で運営した夏の楽しみ盆踊り大会もしばしば続いた。